

U001-03

会場:国際会議室

時間: 5月26日10:00-10:30

宇宙惑星科学における大型研究の推進

Big projects in the planetary space science

中村 正人^{1*}

Masato Nakamura^{1*}

¹宇宙科学研究所

¹ISAS

宇宙惑星科学の推進においてはしばしば大型研究が重要視される。これは、地球から極めて離れたところを観測する事に研究は端を発する訳であるから、遠く離れた小さいものをより詳細に見る大きな望遠鏡や、地球を離れて物事が起きている地球周辺プラズマ環境、あるいは他惑星の周囲を回って惑星を観測する探査機が必要となるからである。これにかかる費用を他の分野（例えば分子生物学や天文学）と比較すると桁違いに大きなものとなり、そこから生み出される成果が果たしてその莫大な費用に見合うものだろうかという疑念が人々の心に生ずるのは、けだし当然の事と言わねばならない。例えば隣の天体である月へ行き探査をすると言うだけでも数百億円の費用がかかり、その費用を他に用いるならば、どれだけ多くの貧しい人々を救えるかを考えれば、我々科学者はこの大型計画を推進する理由を人々に納得して頂かなければならない。この議論はしばしば水掛け論で終わりがちであるが、根気よくその理由をもってして説得を行わなければならない。人類が古くから持ち続けている疑問”われわれは何処から来て何処へ行くのか？”にアプローチする上でこれらの大型計画が有効だと信じる事によってこの説得は始まる。宇宙惑星科学の大型研究を推進する事によって人類は自らの存在理由を含めた太陽系誕生の歴史を知り得る。大型研究は探査にかかる人的、資金的投資に十分見合った成果を人類に与える一つのチャンネルである。さらには国威発揚ではなく、日本の品位を示すため、さらには平和国家の誇りを体現するために人類に如何にして日本が貢献できるかを訴えていくべきであろう。日本の存在価値を高めるもの、それが宇宙惑星科学における大型研究のあるべき姿である。そのため人類活動として行うべき良い大型研究は、「第一級の科学目標」を明確にし、それを実現するための「挑戦的技術要素」を含んだ計画を真摯な議論を踏まえて立案することが必要である。

キーワード:宇宙惑星科学,大型研究

Keywords: Space and Planetary Science, Big project